

6中保第 1024 号
令和6年11月12日

各県中地域医療構想調整会議構成員 様

福島県県中保健所長
(公印省略)

令和6年度第3回県中地域医療構想調整会議の書面開催について（通知）

日頃より、本地域の地域医療の推進に御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、有床診療所の2025年における対応方針が全ての有床診療所から提出されましたので、標記の会議を書面にて開催することといたしました。

つきましては、御多忙のところ恐縮ですが、別添の資料を御確認いただき、異議等がございましたら「別紙 異議等報告書」に御記入いただき、11月29日（金）までに下記のEメール又はFAXで御提出ください。

なお、異議等がなければ、「別紙 異議等報告書」の提出は不要で、合意いただいたとみなします。

記

1 議 題

- (1) 有床診療所の2025年における対応方針について（資料1及び資料2）
異議等ありましたら、別紙1に異議等のある診療所名及び内容を記入してください。

2 その他（情報提供）

- (1) 病院及び有床診療所の病床数等（令和6年10月31日現在・資料3）
病床を有する県中医療圏の全ての医療機関より2025年における対応方針を提出いただきました。これらの対応方針を元にして、10月31日までの変更を反映し各医療機関の病床数等を集計しましたので、共有します。

3 報告先

- (1) Eメールアドレス iryoyyakujiti-mu@pref.fukushima.lg.jp
(2) FAX番号 0248-75-7825

有床診療所の2025年における対応方針一覧(令和6年10月31日現在)

番号	病院名	R5.7.1 現在の 病床数 (総数)	・高度 急性 期	・急性 期	・回復 期	・慢性 期	・休床 (有りの場合、 経過の経過につ いて詳しく記載して ください)	病床機能の変更を予定する 場合、具体的な変更内容	診療科目	職員数	現在、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	現在、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	現在、自施設の担っている新興感染症等 対応	現在、自施設の担っている他機関との連 携	現在の自施設の課題	R7年(2025)において 地域で担う役割	R7年(2025)において 圏域内の他の医療機 関に果たしてほしい 役割	R7年(2025)、自施設 の出ている政策 医療(5疾病5事業、 在宅医療)	R7年(2025)、自施設 の出ている新興感 染症等対応	R7年(2025)の他機 関との連携	R6(2024)からの働き 方改革への対応につ いて	建物の建替え、改修 予定	高額医療機器の購入	今後の自施設の課 題、不安要素、他医 療機関との連携希 望、など	
1	医療法人 八木眼科 医院	8		8				なし	眼科	医師 常勤10人 非常勤0.2人 看護師 常勤5人 受付 常勤2名 非常勤3名	入院による治療は、希望者の白内障の予定手術のみ 対応している。 夜間時間外診療は受け入れていない。 地域の休日診療は当番時に対応している。	なし	なし	眼科における眼科 一般診療を行って いる 症例によっては下 記の総合病院へ紹 介し対応している	特になし	定められた診療時 間内での眼科の一 般診療を行う。入院 治療の必要な 症例については眼科 病棟のある総合病 院(南東北病院、太 田西ノ内病院、寿 泉堂病院等)へ紹 介している。当番時 の休日診療も継続 して行っていく	現状は特になし	眼科のためなし	科の特性上(眼科) のため、基本的に 当該疾患への初期 対応は行っていない。 総合病院へ紹介し ている	現状では医師およ びスタッフともに、働 き方改革には対応、 遵守できている	なし	なし	なし	なし	
2	郡山整形 外科・リハ ビリテー ション科	19				19		病床変更の予定はない	整形外科・リハビリ テーション科・リウマ チ科	・医師 常勤1名 ・看護師 常勤8名 ・看護補助 常勤1名 ・理学療法士 常勤5名 ・事務職員3名	・病棟・入院基本料Ⅰ、平均在院日数 200日 ・稼働率100% ・外来: 延べ数2386人(年間) 実人数740人(年間)	なし	なし	一次救急のみ行 い、二次救急が必要 な患者は、近隣 の西ノ内病院や寿 泉堂病院へ依頼し ている。	診療報酬の収入増 い、二次救急が必要 な患者は、近隣の 総合病院へ依頼し ている。	日常的な健康問題 を診察・治療する こと。また予防医療 や健康増進を行っ ている。	スムーズな患者紹 介。	なし	特になし	現状を継続して行 きたい。	現状の医療体制を 維持していく。	なし	なし	建物の老朽化。	
3	医療法人 たなか レディース クリニック	12		12				変更予定なし	産婦人科	医師:常勤2名 助産師:常勤8名 非常勤1名 看護師:常勤5名 非常勤2名 事務員:常勤3名 看護助手:常勤1名 非常勤1名 給食担当:常勤3名 非常勤2名	分娩 202件(うち帝王切開10件) 外来患者平均60人/日 病棟平均在院日数5.0	保険医療機関 母体保護法指定医 生お配置されている 医療機関	軽症で妊婦の検査・投薬のみ実施 補綴・新生児が入院 しているため重症 患者の受け入れ不可	女性へのヘルスケア (思春期から高齢者 まで)に関する相談 など	妊婦や産婦の内科 疾患を管理してほ しい	現在と同じ	重症患者受け入れ は不可 軽症患者も妊婦の みの対応	現在と同じ	特になし	なし	なし	なし	産科疾患以外(感冒 など)で妊婦の診療 を拒否する施設がある こと 産科も含めて緊急 搬送に時間がかかること		
4	南東北眼科 クリニック	18		18				グループ病院である総合 南東北病院が2027年7月 をめどに新病院建築に向 けて活動中であり、南東北 眼科クリニックを含むグ ループ内複数施設の統合 を計画しています。医療資 源の集約化を図り、高度急 性期から回復期まで幅広く 展開し、今まで以上に地域 との連携を推進していく計 画となっています。	眼科、内科、外科、 形成外科、皮膚科、 放射線治療科	・医師 4.8人 ・看護職員 16.0人 ・看護補助者 4.8人 ・専門職 12.0人 ・事務職員 5.5人	・休日に受診した患者延べ数:2人 ・夜間時間外に受診した患者延べ:3人 ・救急車の受入れ件数:0人 ・病棟毎出入院基本料 有床診療所入院基本料Ⅰ 平均在院日数 1.6日 ・病床稼働率 58.4%	無し	自施設にて発生し た患者への対応	眼科手術目的の患 者紹介	・他施設連携の強化 専門性を有する施設 として地域貢献 すると共に他のクリ ニックや医院との 連携を強化し、患 者さんへの最良の 選択を提案・提供す ること。 ・関連施設の再編 総合南東北病院 の新病院新築移転 に合わせた病床移動 及び統合	・従来から担っている 専門的治療(眼科 領域疾患)の急性 期医療体制の充 実	現在同様、急性 期医療を受けた後 の患者の受け皿と なる医療機関の整 備を進めて欲しい	無し	自施設にて発生し た患者への対応	眼科領域における 治療施設としての 機能を維持。	A水準内に収まるよう 取り組みを進めて いる。	2027年7月に総合 南東北病院との統 合、新病院を開設 すべく活動中。	無し		
5	医療法人 慈雲金付 南ヘルス クリニック	15		15				—	内科、産婦人科、外科、 小児科、消化器 内科、循環器内科、 リハビリテーション科	・医師 常勤2人、非常勤14人 ・看護師 常勤25人(助産師 9人、保健師1人 看護師10人、准看護師5 人)、非常勤5人(助産師2 人、看護師2人) ・その他 診療放射線技師・ 理学療法士等 23人	・病棟(有床診療所入院基本料):産科の運用 令和4年度分娩数321件。 ・外来: かかりつけ医として、地域住民の健康管理・ 診療の実施。 妊婦が安心安全に出産できる母体管理等の実施。	住民健診・県民健康 調査等、積極的 に受け入れている。	令和6年6月、県から「第二種協定指定 医療機関」指定。	専門的な治療によ る症例又は救急 対応が必要な理 由は、専門外来・二次 救急医療機関へ紹 介している。その 後の逆紹介に対応 している。	—	引き続き、かかりつ け医としての診療 及び安心して出 産できる医療機関 としての役割を継続 する。	—	令和6年6月、「継続 的な宿直又は日直 勤務許可書」取得。	令和8年4月に産婦 人科、小児科につ いて新築移転予 定。内科、外科、消 化器内科、循環器 内科、リハビリテ ーション科については 現在地に診療継続 予定。	—	—				
6	ぐつすく りーぶク リニック	1		1				検査入院のための病床で あるため、外来で検査が行 える体制を整えることがで ければ病床は廃止の方向 で検討している。	呼吸器内科、内科	医師1名(常勤1名)、看護師 1名(常勤1名)、臨床検査技 師2名(常勤2名、事務員3 名(常勤2名、非常勤1名))	平均在院日数 2 稼働率 0.47	睡眠時無呼吸症候 群の診療を主に 行っており、診断 のための検査入院を 行っている。	新興感染症に 対しては受け入れる 体制が整っていない ため、対応してい ない。	当院で対応できな い患者については、 地域の分枝施設 の南東北病院、寿 泉堂病院、星病院 と連携して対応し ている。	睡眠時無呼吸症候 群以外の疾患につ いては、マナハワ ーの問題などで対 応が現状では困難 であるため、今後 の診療体制の拡充 などを検討する余地 がある。	睡眠時無呼吸症候 群を専門に地域医 療に貢献している かと思う。	より緊密な連携を 図ってきたい。	診療体制が拡充で きれば生活習慣病 などの疾患にも対 応したい。	新興感染症に 対しては受け入れる 体制が整っていない ため、対応してい ないと思われる。	現状の体制を維持 していきたい。	働き方改革への対 応はできていると考 える。	予定はない。	予定はない。	定期通院患者の紹 介などを通じて他医 療機関との更なる 連携が必要と思わ れる。診療体制の 拡充のためには医師 などの補充が前提 となる。	
7	医療法人 美術館通 りクリニック	17					17	令和5年10月に病床数を0 にする予定です	内科 産婦人科	医師 常勤2名 看護師 常勤2名 非常勤1.8名	休床中のため入院患者は0です 休日診療、夜間診療は行っていません	行っていない	休床中のため、受け 入れていません	休床中のため、入院 患者を受け入れて いません	病床数を0にする手 続き予定です	病床数が0になるの で役割は担えませ ん	特にありません	特にありません	特にありません	特にありません	特にありません	予定はありません	予定はありません	特にありません	
8	医療法人 宮誠会 古川産婦 人科	19		19					産婦人科	・医師 常勤2名 ・助産師 常勤0.5名 ・看護師 常勤0.5名 ・看護師 常勤5名 ・准看護師 非常勤 0名 ・准看護師 常勤3名 非常勤 0.7名	一般病棟(有床診療所入院基本料Ⅰ 平均在院日数 4.0日 病床稼働率 36%)	ローリスク妊婦の周 産期医療を担って いる。	ハイリスク妊婦の2 次病院、地域周産 期センターへの紹 介	出生数の減少によ り、地域の分枝施設 の需要の減少が見 込まれることから、 現状の体制を維持 するべきか否かを 検討が必要	ローリスクの分娩を 担う役割	ローリスク妊婦の周 産期医療を担って いる。	ローリスク妊婦の周 産期医療を担って いる。	ハイリスク妊婦の地 域周産期センター への紹介	理事長・理事の医 師が月～金曜日に 宿直を行い、土・ 日に外部医師の宿 直をお願いする ようにした。 (労働基準監督署 の宿直許可書を取 得)	予定なし	予定なし	分娩数の減少によ り経営状況が悪く なっている。 医療機器の更新が 進まず機器が老朽 化してきている。 (2026年度からの出 産費用の健康保険 適用化が検討され ている。			
9	医療法人 仁正会 塚原産婦 人科内科 外科・外科 医院	15		15					産婦人科・内科・外 科・小児科	医師 常勤 1名 看護師 常勤 3名 事務員 常勤 3名	婦人科・産婦人科(妊婦健診等含む) 人工中絶手術 施設健診(子宮頸がん検診・骨粗鬆症・B型肝炎・前立 腺がん検診) 委託子宮頸がん検診 健康医診断 内科(慢性疾患・急性期症状・発熱外来) 外科 外傷処置 小児科 予防接種 感冒症状 令和4年度 外来患者延べ人数13,773名 人工中絶手術(1日入院)54件	なし	発熱外来のみ	入院を必要とする 患者に対して、総合 病院と連携して対 応している。	産婦人科の診療 数は少ないため、セ ミオープンシステム を理解し利用してい た。どこにどうした らいいの。 企業等からの子宮 頸がん検診を増や すにはどうしたら いいの。	診療・検診等がス ムーズに対応でき るよう体制を整え る。	無し	無し	発熱外来のみ	入院・手術を必要と する患者に対して、 総合病院と連携し て対応をしている。	常勤医師1名の体 制のため、現状維 持を確保していく。	無し	無し		
10	一般財団 法人 脳 神経疾患 研究所 附属 南 東北がん 陽子線治 療セン ター	19		19				変更なし	放射線治療科・脳神 経外科・泌尿器科・ 外科・内科・耳鼻咽 喉科・胸部外科・呼 吸器内科・消化器内 科・婦人科	・医師 常勤3人、非常勤2.3 人・看護師18名 ・放射線技師18名 ・医学物理士3人 ・事務14名	・届出 有床診療所入院基本料Ⅰ、医師配置加算Ⅰ、看護 配置加算Ⅰ、夜間看護配置加算Ⅰ、看護補助配置加 算Ⅰ、看取り加算、有床診療所一般病棟初期加算、明 細書発行体制等加算、患者サポート体制充実加算、入 院時食事療養(Ⅰ)、がん性疼痛緩和指導管理料、入院 時生活療養(Ⅰ)、がん治療連携指導料、医療機器 安全管理料2、CT撮影及びMRI撮影、粒子線治療、粒 子線治療適応判定加算、粒子線治療医学管理加算、 先進医療A(陽子線治療) 平均在院日数25.8日・病床稼働率88.7%	がんなど	当センターのがん 治療患者のみ	総合南東北病院と 連携(隣接してい る)	経年劣化により再 建設が必要。4年後 に総合南東北病院 と合併し新病院の 建設が進んでいる。	さまざまな理由で手 術ができない、治 療の選択肢が限られ ている。手術や入院 は避けたいなどの 患者さんへのがん 治療の選択肢 の一つとして担当。	陽子線治療後の フォロー	がん治療	当センターのがん 治療患者のみ	総合南東北病院と 連携(隣接してい る)	医師及び看護師、 放射線技師の増員 確保。	予定時期 現在 基 本設計段階 2027 年完成予定	新病院に合わせ陽 子線治療装置2台 設置予定	治療患者の増加傾 向に伴い、医師、看 護師、放射線技師 を確保したいが困難。	
11	医療法人 エイレイ ティア岡崎 パースク リニック	19		19				特にございません。	産科、婦人科、内科、 小児科	・医師(常勤2名、非常勤7 名) ・助産師(常勤15名、非常勤 1名) ・看護師(常勤7名) ・管理栄養士(1名)	・入院基本料Ⅰ ・平均在院日数 5.6日 ・病床稼働率 76.9%	・育成医療等の提供 に関する取組み について、妊産婦 等への保健施設と しての産後ケア事 業の推進。 ・学校教育及び生涯 学習を通じた妊婦 ・出産等に関する 医学的・科学的に 正しい知識の普及・ 啓発活動。	第二種協定指定医療 機関として、福島 県より新型インフル エンザ等感染症等 に係る発生の方策 が行われた時から、 必要な措置を迅速 かつ的確に講ずる こと。	太田西ノ内病院や 聖徳総合病院等と 機能分担し、リスク に応じた施設間連 携を図っている。	小児科等の診療科 の充実を図るため の専門医の確保。	多くの妊婦が最初に 受診する一次施設 として、地元で安心 できる環境をつくり、 また、地域に分娩場所 を提供する役割を担 っている。	高次医療機関の充 実を促すため、NICU 等の施設及び専門 医師の充実	今年度引き続き、 NICU等の施設及び 専門医師の充実	今年度と同様に、 第二種協定指定医 療機関として、新 型インフルエンザ等 感染症等の発生時 に、必要な措置を 迅速かつ的確に講 ずること。	高次医療機関との 機能分担により、リ スクに応じた施設間 連携体制の維持を 図る。	各担当職の業務内 容の洗い出しによ るタスクシフト/タ スクシェアの推進と、 好事例分析による 更なる進捗に努め た。	特にございません。	必要に応じた機器 の買い換え購入程 度。	小児科等の診療科 の充実を図るため の専門医の確保等 が課題であり、近隣 の医療機関と話し 合いたい	
12	今泉須賀 川医院 (眼科)	13		13				変更なし。	眼科	・医師 常勤2名 ・看護師4名、准看護師1名 ・視能訓練士4名、 ・事務員6名	日帰り入院(主に白内障手術)166名(令和4年度実績)	急性期	眼科専門	特になし。	施設を老朽化して おり、空調設備工 事、配管改善工事 を検討中。	急性期	特になし。	特になし。	眼科専門	特になし。	人材確保が課題。	未定	未定	建物設備等の改修 予定。	

番号	病院名	R5.7.1 現在の 病床数 (総数)	・高度 急性 期	・急性 期	・回復 期	・慢性 期	・休床	R7.7.1 現在の 予定病 床数	・高度 急性 期	・急性 期	・回復 期	・慢性 期	・休床(有りの場合、 転退の見通しにつ いて詳しく記載してく ださい)	病床機能の変更を予定する 場合、具体的な変更内容	診療科目	職員数	現在、自施設の担っている診療実績（令和4年度実績）	現在、自施設の担 っている政策医療（5疾 病5事業、在宅医療）	現在、自施設の担 っている新興感染症等 対応	現在の他機関との連 携	現在の自施設の課題	R7年(2025)において 地域で担う役割	R7年(2025)において 圏域内の他の医療機 関に果たしてほしい 役割	R7年(2025)、自施設 の担っている政策 医療（5疾病5事業、 在宅医療）	R7年(2025)、自施設 の担っている新興感 染症等対応	R7年(2025)の他機 関との連携	R6(2024)からの働き 方改革への対応につ いて	建物の建替え、改修 予定	高額医療機器の購入	今後の自施設の課 題、不安要素、他医 療機関との連携希 望、など	
13	医療法人 崇敬会 清水医院	15				15		15				15		なし。	外科・内科・循環器 科・消化器科・整形 外科・耳鼻咽喉科	・医師(常勤2人・非常勤1 人) ・事務6人 ・看護師(常勤7人・非常勤2 人) ・介護2人 ・理学療法士1人	休日診療20人、時間外診療15人、救急車の受入23 件、届出入院基本料2、平均在院日数60、在床患者延 べ数2,725人	がん、急性及び慢 性心疾患、糖尿病、 入患者の受け入 れ、在宅医療など 担っている。	インフルエンザウイ ルス・コロナウイル ス感染症の軽症者 のみ対応。	一次救急の役割を 担い、2次、3次救 急は郡山市の病院 へ。	医療と福祉を取り 巻く環境の中で、現 状の体制を維持す るために医療技術 の向上を目指して いる。又、社員教 育、従業員の定着 率を上げる体制を 整える。地域医療 需要の減少に歯止 めをかける。	がん、急性・慢性期 の心疾患、高齢者 における慢性疾患 等、在宅医療の促 進、一次救急にお ける役割を担って 行く。	夜間帯や休日の診 療をかかりつけ医と しての役割を果た してほしいと願いま す。	同上	同上	同上	現状の体制を維持 する。	なし。	なし。	なし。	なし。
14	こじま眼 科	5		5				5		5				なし	眼科	12名 医師2名 看護師4名(正看2名、准看2 名) 視能訓練士1名 医療事務5名	平均在院日数10		眼科の為受け入れ ていない	当院で治療困難な 患者様は南東北病 院、太田西/内病 院etcへ紹介してい る			眼科なので受け入 れは困難	引きつづき連携し ていく	看護師、視能訓練 士の人材確保に努 力する	なし	手術用顕微鏡の購 入を予定している	人口減少による更 なる人材確保を心 配している			
15	医療法人 健山会 船引クリ ニック	14					14	14					14 コロナ感染増加傾 向のため継続 コロナの状況によ り来年度再開の見 通し	予定なし	内科、整形外科、消 化器科、他	医師 常勤3名 歯科医師2 名 非常勤2名 看護師 常勤5名 非常勤2 名 理学療法士、作業療法士 5 名	0件	外来患者さんの急 性期、慢性期疾患 の治療、往診をする 在宅医療など	介入を要する患者 さんを施設で受け 入れ、外来は周辺 の病院と連携して 急性期、慢性期と 患者さんの治療を していく	田村市では眼科医 が不足しているの で、引きつづき地域 医療を担っていく方 針	同上	田村市内に手術や 入院での加療がで きる病院が欲しい	在宅医療を田村 市、郡山市を中心 に拡大していく	外来で対応できる 重症患者さん以外 の受け入れ	2次救急以上は他 の大きな医療機関 へ紹介し、入院加 療が終了した患者 さんを外来または 施設で受け入れを する	現状の医療進捗体 制が維持できるよう に医師やパラメディ カルの人員の確保 が必要	なし	未定	特記なし		
16	田村市立 都路診療 所	19					19	19					19床 (数年以内に開設 予定の市民病院 へ移行する予定)	変更の予定なし	内科・整形外科	・医師 常勤 1人 非常勤 0.2人 ・看護師 常勤 3人 非常勤 0.8人 ・診療放射線技師 常勤 1 人 ・事務員 常勤 1人 ・バス運転手 非常勤 0.8 人	・令和6年度 入院休止中 ・令和4年度 入院実績はなし、 外来診療212日、受診者数4,562人、21.5人/日	・へき地医療(在宅 医療)を担ってい る。	・発熱外来	・在宅患者や外来 患者のうち入院を 必要とする患者は、 たむら市民病院へ 紹介する。 ・緊急性のある患者 は、星総合病院へ 紹介する。	・外来診療を中心に 患者の健康管理を 継続する。 ・通院困難患者は 訪問診療により状 態を観察する。 ・救急患者の受け 入れは原則不可と する。	・施設入所者が急 変した際の入院受 入(特に土日・時間 外)	・へき地医療(在宅 医療)	・発熱外来	・基幹病院として位 置づける星総合病 院と当所の後方支 援を担う ・たむら市民病院と の重直連携を図 る。 (基本的には) ・在宅患者や外来 患者のうち入院を 必要とする患者は、 たむら市民病院へ 紹介する。 ・緊急性のある患者 は、星総合病院へ 紹介する。	・入院は休止中の ため、日直・当直は 行わない。 ・予約制を導入し、 患者受診の偏在を 調整している。	・建物30年以上 経過しているが、建 替えの時期は未 定。 ・空き家となってい る医師住宅(1棟) の解体予定。	・今後5年間は、購 入及び更新の予定 なし。	・今後も医師と看護 師の確保は困難で あると予想してい る。 ・土日・時間外の施 設入所者や在宅患 者への対応につい て、 圏内の医療機関 と密に連携してゆ きたい。		
17	石塚医院	18					18	18					18 看護師数が足り れば解消する		内科・小児科	5名	一般外来、発熱外来のみ	なし	発熱外来(医療措 置協定済)	公立小野地方総合 病院	看護師不足	かかりつけ医として	なし	なし	発熱外来(医療措 置協定済)	不明	なし	なし	なし	医師の高齢化	
18	医療法人 青嶺会 すずきレ ディースク リニック	19		19				19		19				なし	産科、婦人科	医師 常勤1名 非常勤7名 助産師11名 看護師5名 看護助手2名 医療事務5名	主に低リスク妊産婦の妊娠、分娩管理、一般婦人科診 療 令和4年度(4月～翌3月) 分娩件数 562件 うち帝王切開 69件 平均外来患者数 38.5人/日		太田西/内病院、 寿泉堂綜合病院、 星総合病院、総合 南東北病院、坪井 病院、公立岩瀬病 院、福島県立医科 大学附属病院と連 携して診療	現在常勤医師1名 で診療を行っており、 医師の負担が大 きい。数か月以 内に常勤医師の増 員を予定している。 また、看護師、助 産師も子育てをし ながら働いている 職員が多く、夜勤 などの負担が大きい。 人員を増員したいが、 各施設ともに人員 不足であり、採用が 容易でない。	低リスク妊婦の妊 娠、分娩管理およ び一般婦人科診療	ハイリスク妊婦の妊 娠、分娩管理、手 術を要する患者の婦 人科診療		現在と特に変更の 予定はない	既に宿日直許可を 取っている。常勤医 師の増員やIT化に よる診療の効率 化。併せて医師以 外の看護従事者、 医療事務などの効 率化、生産性の工 場を図りたい。	スプリングラーの導 入を計画している	令和5年度の補助 金にて保育器、イン フアントウオーマ ーを購入予定。現在 当院で保育器2台、 インフアントウオー マー2台稼働してい るが、ともに開院時 に他院から譲渡さ れたものであり、来 年度以降も更新が 必要である。	短期的には医師、 助産師、看護師の 人員の確保が課 題。また、開院時に 他院から譲渡され た医療機器はすで に耐用年数に近 くなっており、更新 が必要であり、更新 に多額の費用がか かる。長期的には少 子化、分娩数の減 少による経営の不 透明性が問題。令 和7年度以降分娩 の保険適応が予定 されており、それ が経営に与える影 響が不明。			
合計		285	0	163	0	34	68	248	0	163	0	34	51																		
	R5.7.1現在の増減数							-17	0	0	0	0	-17																		

有床診療所の2025年における対応方針

病院・診療所の2025年における対応方針

項目		
病院名		医療法人 八木眼科医院
R5.7.1現在の病床数(総数)	8	R7.7.1現在の予定病床数(総数) 8
・高度急性期		・高度急性期
・急性期	8	・急性期 8
・回復期		・回復期
・慢性期		・慢性期
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	なし	
診療科目(令和 6年 9月 30日現在)	眼科	
職員数(令和 6年 9月 30日現在)	医師 常勤1.0人 非常勤0.2人 看護師 常勤5人 受付 常勤2名 非常勤3名	
現在(令和 6年 9月 30日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)	入院による治療は、希望者の白内障の予定手術のみ対応している。 夜間時間外診療は受け入れていない。 地域の休日診療は当番時に対応している。	
現在(令和 6年 9月 30日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	なし	
現在(令和 6年 9月 30日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	なし	
現在(令和 6年 9月 30日現在)の他機関との連携	眼科における眼科一般診療を行っている 症例によっては下記の総合病院へ紹介し対応している	
現在(令和 6年 9月 30日現在)の自施設の課題	特になし	
R7年(2025)において地域で担う役割	定められた診療時間内での眼科の一般診療を行う。入院治療の必要な症例については眼科病棟のある総合病院(南東北病院、太田西ノ内病院、寿泉堂病院等)へ紹介している。当番時の休日診療も継続して行っていく	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	現状は特になし	
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	眼科のためなし	
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	科の特性上(眼科)のため、基本的に当該疾患への初期対応は行っていない。	
R7年(2025)の他機関との連携	眼科の一般診療がメインのため、緊急入院の必要性がある症例は上記の総合病院へ紹介している	
R6(2024)からの働き方改革への対応について	現状では医師およびスタッフともに、働き方改革には対応・遵守できている	
建物の建替え, 改修予定	なし	
高額医療機器の購入	なし	
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	なし	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		郡山整形外科・リハビリテーション科	
R5.7.1現在の病床数(総数)	19床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19床
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期		・急性期	
・回復期		・回復期	
・慢性期	19床	・慢性期	19床
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	病床変更の予定はない		
診療科目(令和6年9月24日現在)	整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科		
職員数(令和6年9月24日現在)	・医師 常勤1名 ・看護師 常勤8名 ・看護補助 常勤1名 ・理学療法士 常勤5名 ・事務職員3名		
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	・病棟：入院基本料Ⅰ、平均在院日数 200日 ・稼働率100% ・外来：延べ数2386人(年間) 実人数740人(年間)		
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	なし		
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	なし		
現在(令和6年9月24日現在)の他機関との連携	一次救急のみ行い、二次救急が必要な患者は、近隣の西ノ内病院や寿泉堂病院へ依頼している。		
現在(令和6年9月24日現在)の自施設の課題	診療報酬の収入増が難しい。建物の老朽化。		
R7年(2025)において地域で担う役割	日常的な健康問題を診察・治療すること。また予防医療や健康増進を行っていく。		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	スムーズな患者紹介。		
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	なし		
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	特になし		
R7年(2025)の他機関との連携	現状を継続して行きたい。		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	現状の医療体制を維持していく。		
建物の建替え、改修予定	なし		
高額医療機器の購入	なし		
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	建物の老朽化。		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人 たなかレディースクリニック	
R5.7.1現在の病床数(総数)	12	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	12
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	12	・急性期	12
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床	0	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		変更予定なし	
診療科目(令和6年7月26日現在)		産婦人科	
職員数(令和6年7月26日現在)		医師：常勤2名 助産師：常勤8名 非常勤1名 看護師：常勤5名 非常勤2名 事務員：常勤3名 看護助手：常勤1名 非常勤1名 給食担当：常勤3名 非常勤2名	
現在(令和6年7月26日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)		分娩 202件(うち帝王切開10件) 外来患者平均60人/日 病棟平均在院日数5.0	
現在(令和6年7月26日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		保険医療機関 母体保護法指定医お配置されている医療機関	
現在(令和6年7月26日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		軽症で妊婦の検査・投薬のみ実施 褥婦・新生児が入院しているため重症患者の受け入れ不可	
現在(令和6年7月26日現在)の他機関との連携		1次救急のみ その他は県内の2次か3次医療機関へ紹介	
現在(令和6年7月26日現在)の自施設の課題		少子化にともなう分娩数の減少に対する対策 妊娠・分娩管理と産後のケアに力を入れたい	
R7年(2025)において地域で担う役割		女性のヘルスケア(思春期から高齢者まで)に関する相談など	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		妊婦や褥婦の内科疾患を管理してほしい	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		現在と同じ	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		重症患者保受け入れは不可 軽症患者も妊婦のみの対応	
R7年(2025)の他機関との連携		現在と同じ	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		特になし	
建物の建替え、改修予定		なし	
高額医療機器の購入		なし	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		産科疾患以外(感冒など)で妊婦の診療を拒否する施設があること 産科も含めて緊急搬送に時間がかかること	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目		
病院名	南東北眼科クリニック	
R5.7.1現在の病床数(総数)	18	R7.7.1現在の予定病床数(総数)
・高度急性期	0	・高度急性期
・急性期	18	・急性期
・回復期	0	・回復期
・慢性期	0	・慢性期
・休床	0	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		グループ病院である総合南東北病院が2027年7月をめどに新病院建築に向けて活動中であり、南東北眼科クリニックを含むグループ内複数施設の統合を計画しています。医療資源の集約化を図り、高度急性期から回復期まで幅広く展開し、今まで以上に地域との連携を推進していく計画となっています。
診療科目(令和5年11月1日現在)		眼科、内科、外科、形成外科、皮膚科、放射線治療科
職員数(令和5年3月1日現在)		<ul style="list-style-type: none"> ・医師 4. 8 人 ・看護職員 16. 0 人 ・看護補助者 4. 8 人 ・専門職 12. 0 人 ・事務職員 5. 5 人
現在(令和5年11月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)		<ul style="list-style-type: none"> ・休日に受診した患者延べ数: 2 人 ・夜間時間外に受診した患者延べ: 3 人 ・救急車の受入れ件数: 0 人 ・病棟毎届出入院基本料 有床診療所入院基本料1 ・平均在院日数 1. 6 日 ・病床稼働率 58. 4 %
現在(令和5年11月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		無し
現在(令和5年11月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		自施設にて発生した患者への対応
現在(令和5年11月1日現在)の他機関との連携		眼科手術目的の患者紹介
現在(令和5年11月1日現在)の自施設の課題		<ul style="list-style-type: none"> ・他施設連携の強化 専門性を有する施設として地域貢献すると共に他のクリニックや医院との連携を強化し、患者さんへの最良の選択を提案・提供すること。 ・関連施設の再編 総合南東北病院の新病院新築移転に合わせた病床移動及び統合
R7年(2025)において地域で担う役割		・従来から担っている専門的治療(眼科領域疾患)の急性期医療体制の充実
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		現在同様に、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関の整備を進めて欲しい
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		無し
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		自施設にて発生した患者への対応
R7年(2025)の他機関との連携		眼科領域における治療施設としての機能を維持。
R6(2024)からの働き方改革への対応について		A水準内に収まるよう取り組みを進めている。
建物の建替え、改修予定		2027年7月に総合南東北病院との統合、新病院を開設すべく活動中。
高額医療機器の購入		無し
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目		
病院名		医療法人慈繁会附属トータルヘルスクリニック
R5.7.1現在の病床数(総数)	15	R7.7.1現在の予定病床数(総数) 15
・高度急性期		・高度急性期
・急性期	15	・急性期 15
・回復期		・回復期
・慢性期		・慢性期
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		
—		
診療科目(令和6年9月1日現在)	内科、産婦人科、外科、小児科、消化器内科、循環器内科、リハビリテーション科	
職員数(令和6年9月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤2人、非常勤14人 ・看護師 常勤25人(助産師9人、保健師1人、看護師10人、准看護師5人)、非常勤5人(助産師2人、看護師2人) ・その他 診療放射線技師・理学療法士等 23人 	
現在(令和6年9月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟(有床診療所入院基本料)：産科の運用 令和4年度分娩数321件。 ・外来：かかりつけ医として、地域住民の健康管理・診療の実施。妊婦が安心安全に出産できる母体管理等の実施。 	
現在(令和6年9月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	住民健診・県民健康調査等、積極的に受け入れている。	
現在(令和6年9月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	令和6年6月、県から「第二種協定指定医療機関」指定。	
現在(令和6年9月1日現在)の他機関との連携	専門的な治療を要する症例又は救急対応が必要な場合は、専門外来・二次救急医療機関へ紹介している。その後の逆紹介に対応している。	
現在(令和6年9月1日現在)の自施設の課題	—	
R7年(2025)において地域で担う役割	引き続き、かかりつけ医としての診療及び安心して出産ができる医療機関としての役割を継続する。	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	—	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	—	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	令和6年6月、県から「第二種協定指定医療機関」指定。	
R7年(2025)の他機関との連携	—	
R6(2024)からの働き方改革への対応について	令和6年6月、「継続的な宿直又は日直勤務許可書」取得。	
建物の建替え、改修予定	令和8年4月に産婦人科、小児科について新築移転予定。内科、外科、消化器内科、循環器内科、リハビリテーション科については現在地にて診療継続予定。	
高額医療機器の購入	—	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	—	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目		
病院名		ぐっすりーふクリニック
R5.7.1現在の病床数(総数)	1	R7.7.1現在の予定病床数(総数) 1
・高度急性期		・高度急性期
・急性期	1	・急性期 1
・回復期		・回復期
・慢性期		・慢性期
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	検査入院のための病床であるため、外来で検査が行える体制を整えることができれば病床は廃止の方向で検討している。	
診療科目(令和6年9月24日現在)	呼吸器内科、内科	
職員数(令和6年9月24日現在)	医師1名(常勤1名)、看護師1名(常勤1名)、臨床検査技師2名(常勤2名)、事務員3名(常勤2名、非常勤1名)	
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	平均在院日数 2, 稼働率 0.47	
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	睡眠時無呼吸症候群の診療を主に行っており、診断のための検査入院を行っている。	
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	新興感染症に対しては受け入れる体制が整っていないため、対応していない。	
現在(令和6年9月24日現在)の他機関との連携	当院で対応できない患者については、太田西の内病院、南東北病院、寿泉堂病院、星病院と連携して対応している。	
現在(令和6年9月24日現在)の自施設の課題	睡眠時無呼吸症候群以外の疾患については、マンパワーの問題などで対応が現状では困難であるため、今後の診療体制の拡充などを検討する余地がある。	
R7年(2025)において地域で担う役割	睡眠時無呼吸症候群を専門に地域医療に貢献していると思う。	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	より緊密な連携を図っていきたい。	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	診療体制が拡充できれば生活習慣病などの疾患にも対応したい。	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	新興感染症に対しては受け入れる体制が整っていないため、対応していないと思われる。	
R7年(2025)の他機関との連携	現状の体制を維持していきたい。	
R6(2024)からの働き方改革への対応について	働き方改革への対応はできていると考える。	
建物の建替え、改修予定	予定はない。	
高額医療機器の購入	予定はない。	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	定期通院患者の紹介などを通じて他医療機関との更なる連携が必要と思われる。診療体制の拡充のためには医師などの補充が前提となる。	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目		
病院名		医療法人 美術館通りクリニック
R5.7.1現在の病床数(総数)	17	R7.7.1現在の予定病床数(総数) 0
・高度急性期		・高度急性期
・急性期		・急性期
・回復期		・回復期
・慢性期		・慢性期
・休床	17	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		令和5年10月に病床数を0にする予定です
診療科目(令和5年10月2日現在)		内科 産婦人科
職員数(令和5年10月2日現在)		医師 常勤2名 看護師 常勤2名 非常勤1.8名
現在(令和5年10月2日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)		休床中のため入院患者は0です 休日診療、夜間診療は行っていません
現在(令和5年10月2日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		行っていません
現在(令和5年10月2日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		休床中の為、受け入れていません
現在(令和5年10月2日現在)の他機関との連携		休床中の為、入院患者を受け入れていません
現在(令和5年10月2日現在)の自施設の課題		病床数を0にする手続き予定です
R7年(2025)において地域で担う役割		病床数が0になるので役割は担えません
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		特にありません
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		特にありません
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		特にありません
R7年(2025)の他機関との連携		特にありません
R6(2024)からの働き方改革への対応について		特にありません
建物の建替え、改修予定		予定はありません
高額医療機器の購入		予定はありません
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		特にありません

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人宣誠会 古川産婦人科	
R5.7.1現在の病床数(総数)	19	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	19	・急性期	19
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容			
診療科目(令和 5年11月14日現在)		産婦人科	
職員数(令和 5年11月14日現在)		・医師 常勤2名 非常勤 0.5名 ・助産師 常勤6名 非常勤 0.5名 ・看護師 常勤5名 非常勤 0名 ・准看護師 常勤3名 非常勤 0.7名	
現在(令和 5年11月14日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)		・一般病棟(有床診療所入院基本料Ⅰ平均在院日数 4.0日 病床稼働率 36%)	
現在(令和5年11月14日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		ローリスク妊婦の周産期医療を担っている。	
現在(令和 年 月 日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応			
現在(令和 5年11月15日現在)の他機関との連携		ハイリスク妊婦の2次病院、地域周産期センターへの紹介	
現在(令和 5年11月15日現在)の自施設の課題		出生数の減少により、地域の分娩施設の需要の減少が見込まれることから、現状の体制を維持するべきか否か検討が必要	
R7年(2025)において地域で担う役割		ローリスクの分娩を担う役割	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割			
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		ローリスク妊婦の周産期医療を担っている。	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応			
R7年(2025)の他機関との連携		ハイリスク妊婦の地域周産期センターへの紹介	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		理事長・理事の医師が月～金曜日に宿日直を行い、土・日に外部医師の宿日直をお願いするようにした。 (労働基準監督署の宿日直許可を取得)	
建物の建替え、改修予定		予定なし	
高額医療機器の購入		予定なし	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		分娩数の減少により経営状況が厳しくなっている。 医療機器の更新が進まず機器が老朽化してきている。 2026年度からの出産費用の健康保険適用化が検討されている。	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人 仁正会 塚原産婦人科内科・外科医院	
R5.7.1現在の病床数(総数)	15	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	15
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	15	・急性期	15
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容			
診療科目(令和6年7月 1日現在)		産婦人科・内科・外科・小児科	
職員数(令和6年7月1日現在)		医師 常勤 1名 看護師 常勤 3名 事務員 常勤 3名	
現在(令和6年7月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)		婦人科・産婦人科(妊婦健診等含む) 人工中絶手術 施設健診(子宮頸がん検診・骨粗鬆症・B型肝炎・前立腺がん検診) 委託子宮頸がん検診 健康医診断 内科(慢性疾患・急性期症状・発熱外来) 外科 外傷処置 小児科 予防接種 感冒症状 令和4年度 外来患者延べ人数13,773名 人工中絶手術(1日入院) 54件	
現在(令和6年7月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		なし	
現在(令和6年7月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		発熱外来のみ	
現在(令和6年7月1日現在)の他機関との連携		入院を必要とする患者に対して、総合病院と連携して対応をしている。	
現在(令和6年7月 1日現在)の自施設の課題		産婦人科の診療所は少ないため、セミオープンシステムを理解し利用していただくにはどうしたらいいのか。 企業等からの子宮頸がん検診等を増やすにはどうしたらいいのか。	
R7年(2025)において地域で担う役割		診療・検診等がスムーズに対応できるよう体制を整える。	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		無し	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		無し	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		発熱外来のみ	
R7年(2025)の他機関との連携		入院・手術を必要とする患者に対して、総合病院と連携して対応をしている。	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		常勤医師1名の体制のため、現状維持を確保していく。	
建物の建替え、改修予定		無し	
高額医療機器の購入		無し	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など			

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 南東北がん陽子線治療センター	
R5.7.1現在の病床数(総数)	19	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	19	・急性期	19
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		変更なし	
診療科目(令和 5年9 月1 日現在)		放射線治療科・脳神経外科・泌尿器科・外科・内科・耳鼻咽喉科・胸部外科・呼吸器内科・消化器内科・婦人科	
職員数(令和 5年9 月1 日現在)		・医師 常勤3人 非常勤2.3人 ・看護師18名 放射線技師18名 ・医学物理士3人 ・事務14名	
現在(令和 5年9 月1 日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)		・届出 有床診療所入院基本料1、医師配置加算1、看護配置加算1、夜間看護配置加算1、看護補助配置加算1、看取り加算、有床診療所一般病棟初期加算、明細書発行体制等加算、患者サポート体制充実加算、入院時食事療養 (I)、がん性疼痛緩和指導管理料、入院時生活療養 (I)、がん治療連携指導料、医療機器安全管理料2、C T撮影及びMR I 撮影、粒子線治療、粒子線治療適応判定加算、粒子線治療医学管理加算、先進医療A (陽子線治療) 平均在院日数25.8日 ・病床稼働率88.7%	
現在(令和 5年9 月1 日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		がんなど	
現在(令和 5年9 月1 日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応		当センターのがん治療患者のみ	
現在(令和 5年9 月1 日現在)の他機関との連携		総合南東北病院と連携 (隣接している)	
現在(令和 5年9 月1 日現在)の自施設の課題		経年劣化により再建設が必要。4年後に総合南東北病院と合併し新病院の建設が進んでいる。	
R7年(2025)において地域で担う役割		さまざまな理由で手術ができない、治療の選択肢が限られている、手術や入院は避けたいなどの患者さんへのがん治療の選択肢の一つとして担う。	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		陽子線治療後のフォロー	
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		がん治療	
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応		当センターのがん治療患者のみ	
R7年(2025)の他機関との連携		総合南東北病院と連携 (隣接している)	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		医師及び看護師、放射線技師の増員確保。	
建物の建替え, 改修予定		予定時期 現在基本設計段階 2027年完成予定	
高額医療機器の購入		新病院に合わせ陽子線治療装置2台設置予定	
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など		治療患者の増加傾向に伴い、医師、看護師、放射線技師を確保したいが困難。	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目		
病院名		医療法人エイレイテュイア 岡崎バースクリニック
R5.7.1現在の病床数(総数)	19床	R7.7.1現在の予定病床数(総数) 19床
・高度急性期		・高度急性期
・急性期	19床	・急性期 19床
・回復期		・回復期
・慢性期		・慢性期
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	特にございません。	
診療科目(令和 6年 6月 30日現在)	産科、婦人科、内科、小児科	
職員数(令和 6年 6月 30日現在)	・医師(常勤2名、非常勤7名)・助産師(常勤15名、非常勤1名) ・看護師(常勤7名)・管理栄養士(1名)	
現在(令和 4年 3月 31日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	・入院基本料 1 ・平均在院日数 5.6日 ・病床稼働率 76.9%	
現在(令和 6年 6月 30日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	・育成医療等の提供に関する取組みについて、妊産婦等への保健施策としての産後ケア事業の推進。 ・学校教育及び生涯学習を通した妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識の普及・啓発活動。	
現在(令和 6年 6月 30日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	第二種協定指定医療機関として、福島県より新型インフルエンザ等感染症等に係る発生の公表が行われた時から、必要な措置を迅速かつ的確に講ずること。	
現在(令和 6年 6月 30日現在)の他機関との連携	太田西ノ内病院や星総合病院等と機能分担し、リスクに応じた施設間連携を図っている。	
現在(令和 6年 6月 30日現在)の自施設の課題	小児科等の診療科の充実を図るための専門医の確保。	
R7年(2025)において地域で担う役割	多くの妊婦が最初に受診する一次施設として、地元で安心して出産できる環境をつくり、また、地域に分娩場所を提供する役割を担っている。	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	高次医療機関のNICU等の施設及び専門医師の充実	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	今年度に引き続き、産後ケアの積極的展開と妊娠、出産に関する正しい知識の普及・啓発活動の推進を図る	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	今年度と同様に、第二種協定指定医療機関として、新型インフルエンザ等感染症等の発生時に、必要な措置を迅速かつ的確に講ずること。	
R7年(2025)の他機関との連携	高次医療機関との機能分担により、リスクに応じた施設間連携体制の維持を図る。	
R6(2024)からの働き方改革への対応について	各担当職の業務内容の洗い出しによるタスクシフト/タスクシェアの推進と、好事例分析による更なる進展に努めた。	
建物の建替え、改修予定	特にございません。	
高額医療機器の購入	必要に応じた機器の買い換え購入程度。	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	小児科等の診療科の充実を図るための専門医の確保等が課題であり、近隣の医療機関と話し合いたい	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		今泉須賀川医院（眼科）	
R5.7.1現在の病床数(総数)	13床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	13床
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	13床	・急性期	13床
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床	無	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		変更なし。	
診療科目(令和 5年 10月 1日現在)		眼科	
職員数(令和 5年 10月 1日現在)		・医師 常勤2名、看護師4名、准看護師1名、視能訓練士4名、事務員6名	
現在(令和 5年 10月 1日現在)、自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)		日帰り入院 (主に白内障手術) 166名 (令和4年度実績)	
現在(令和 5年 10月 1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		急性期	
現在(令和 5年 10月 1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		眼科専門	
現在(令和 5年 10月 1日現在)の他機関との連携		特に無し。	
現在(令和 5年 10月 1日現在)の自施設の課題		施設が老朽化しており、空調設備工事、配管改善工事を検討中。	
R7年(2025)において地域で担う役割		急性期	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		特になし。	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		特になし。	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		眼科専門	
R7年(2025)の他機関との連携		特になし。	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		人材確保が課題。	
建物の建替え、改修予定		未定	
高額医療機器の購入		未定	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		建物設備等の改修予定。	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人崇敬会 清水医院	
R5.7.1現在の病床数(総数)	15	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	15
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期		・急性期	
・回復期		・回復期	
・慢性期	15	・慢性期	15
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		なし。	
診療科目(令和 6年9月30日現在)		外科・内科・循環器科・消化器科・整形外科・耳鼻咽喉科	
職員数(令和 6 年 9 月 30日現在)		・医師(常勤2人・非常勤1人)・事務6人 ・看護師(常勤7人・非常勤2人)・介護2人・理学療法士1人	
現在(令和 6年 9月 30日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)		休日診療20人、時間外診療15人、救急車の受入23件、届出入院基本料2、平均在院日数60、在棟患者延べ数2,725人	
現在(令和 6年 9月 30日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		がん、急性及び慢性心疾患、糖尿病、入患者の受け入れ、在宅医療など担っている。	
現在(令和 6年 9月 30日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応		インフルエンザウイルス・コロナウイルス感染症の軽症者のみ対応。	
現在(令和 6年 9月 30日現在)の他機関との連携		一次救急の役割を担い、2次、3次救急は郡山市の病院へ。	
現在(令和6年 9月30日現在)の自施設の課題		医療と福祉を取り巻く環境の中で、現状の体制を維持するために医療技術の向上を目指している。又、社員教育、従業員の定着率を上げる体制を整える。地域医療需要の減少に歯止めをかける。	
R7年(2025)において地域で担う役割		がん、急性・慢性期の心疾患、高齢者における慢性疾患等、在宅医療の促進、一次救急における役割を担って行く。	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		夜間帯や休日の診療をかかりつけ医としての役割を果たしてほしいと願います。	
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		同上	
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応		同上	
R7年(2025)の他機関との連携		同上	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		現状の体制を維持する。	
建物の建替え, 改修予定		なし。	
高額医療機器の購入		なし。	
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など		なし。	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目		
病院名		こじま眼科
R5.7.1現在の病床数(総数)	5	R7.7.1現在の予定病床数(総数) 5
・高度急性期		・高度急性期
・急性期	5	・急性期 5
・回復期		・回復期
・慢性期		・慢性期
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	なし	
診療科目(令和 5年 10月 1日現在)	眼科	
職員数(令和 5年 10月 1日現在)	12名 医師2名 看護師4名(正看2名、准看2名) 視能訓練士1名 医療事務5名	
現在(令和 5年 10月 1日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)	平均在院日数10	
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		
現在(令和 5年 10月 1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	眼科の為受け入れていない	
現在(令和 5年 10月 1日現在)の他機関との連携	当院で治療困難な患者様は南東北病院、太田西ノ内病院etcへ紹介している	
現在(令和 5年 10月 1日現在)の自施設の課題	看護師、視能訓練士の人材確保が難しいこと	
R7年(2025)において地域で担う役割	田村市では眼科医が不足しているので、引きつづき地域医療を担っていく方針	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	眼科なので受け入れは困難	
R7年(2025)の他機関との連携	引きつづき連携していく	
R6(2024)からの働き方改革への対応について	看護師、視能訓練士の人材確保に努力する	
建物の建替え, 改修予定	なし	
高額医療機器の購入	手術用顕微鏡の購入を予定している	
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	人口減少による更なる人材確保を心配している	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人健山会 船引クリニック	
R5.7.1現在の病床数(総数)	14	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	14
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期		・急性期	
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床	14	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	14 コロナ感染増加傾向のため継続 コロナの状況により来年度再開の見 通し
病床機能の変更を予定する場合、具体的変更内容		予定なし	
診療科目(令和 6年 7月 26日現在)		内科、整形外科、消化器科、他	
職員数(令和 6年 7月 26日現在)		医師 常勤3名 歯科医師2名 非常勤2名 看護師 常勤5名 非常勤2名 理学療法士、作業療法士 5名	
現在(令和 6年7月 26日現在)、自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)		0件	
現在(令和 6年 7月 26日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		外来患者さんの急性期、慢性期疾患の治療、往診をする在宅医療など	
現在(令和 6年 7月 26日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		入院の必要がない軽症から中等度の患者さんの受け入れ	
現在(令和 6年 7月 26日現在)の他機関との連携		手術など入院が必要な患者さんは郡山や須賀川や二本松にある大きな病院へ紹介している	
現在(令和 6年 7月 26日現在)の自施設の課題		介護を要する患者さんを施設で受け入れ、外来は周辺の病院と連携して急性期、慢性期の患者さんの治療をしていく	
R7年(2025)において地域で担う役割		同上	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		田村市内に手術や入院での加療ができる病院が欲しい	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		在宅医療を田村市、郡山市を中心に拡大していく	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		外来で対応できる重症患者さん以外の受け入れ	
R7年(2025)の他機関との連携		2次救急以上は他の大きな医療機関へ紹介し、入院加療が終了した患者さんを外来または施設で受け入れをする	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		現状の医療進捗体制が維持できるように医師やパラメディカルの人員の確保が必要	
建物の建替え、改修予定		なし	
高額医療機器の購入		未定	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		特記なし	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		田村市立都路診療所	
R5.7.1現在の病床数(総数)	19	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19
・高度急性期	0	・高度急性期	0
・急性期	7	・急性期	7
・回復期	0	・回復期	0
・慢性期	12	・慢性期	12
・休床	有り(19床)	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	有り(19床、数年以内に開設予定の市民病院へ移行する予定)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		変更の予定なし	
診療科目(令和6年7月1日現在)		内科・整形外科	
職員数(令和6年7月1日現在)		<ul style="list-style-type: none"> ・医師 常勤 1人、非常勤 0.2人 ・看護師 常勤 3人、非常勤 0.8人 ・診療放射線技師 常勤 1人 ・事務員 常勤 1人、バス運転手 非常勤 0.8人 	
現在(令和6年7月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)		<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度 入院休止中 ・令和4年度 入院実績はなし、外来診療212日、受診者数4,562人、21.5人/日 	
現在(令和6年7月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		<ul style="list-style-type: none"> ・へき地医療(在宅医療)を担っている。 	
現在(令和6年7月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		<ul style="list-style-type: none"> ・発熱外来 	
現在(令和6年7月1日現在)の他機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・在宅患者や外来患者のうち入院を必要とする患者は、たむら市民病院へ紹介する。 ・緊急性のある患者は、星総合病院へ紹介する。 	
現在(令和6年7月1日現在)の自施設の課題		<ul style="list-style-type: none"> ・医師と看護師の人員不足のため、入院を再開できない。 ・救急医療及び災害医療に対応することも困難である。スタッフの教育訓練も行っていない。 	
R7年(2025)において地域で担う役割		<ul style="list-style-type: none"> ・外来診療を中心に患者の健康管理を継続する。 ・通勤困難患者は訪問診療により状態を観察する。 ・救急患者の受け入れは原則不可とする。 	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		<ul style="list-style-type: none"> ・施設入所者が急変した際の入院受入(特に土日・時間外) 	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		<ul style="list-style-type: none"> ・へき地医療(在宅医療) 	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		<ul style="list-style-type: none"> ・発熱外来 	
R7年(2025)の他機関との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・基幹病院として位置づける星総合病院と当所の後方支援を担うたむら市民病院との垂直連携を図る。(基本的には) ・在宅患者や外来患者のうち入院を必要とする患者は、たむら市民病院へ紹介する。 ・緊急性のある患者は、星総合病院へ紹介する。 	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		<ul style="list-style-type: none"> ・入院は休止中のため、日直・当直は行わない。 ・予約制を導入し、患者受診の偏在を調整している。 	
建物の建替え、改修予定		<ul style="list-style-type: none"> ・建物は30年以上経過しているが、建替えの時期は未定。 ・空き家となっている医師住宅(1棟)の解体予定。 	
高額医療機器の購入		<ul style="list-style-type: none"> ・今後5年間は、購入及び更新の予定なし。 	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も医師と看護師の確保は困難であると予想している。 ・土日・時間外の施設入所者や在宅患者への対応について、圏内の医療機関と密に連携してゆきたい。 	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		石塚医院	
R5.7.1現在の病床数(総数)	18	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	18
・高度急性期	0	・高度急性期	0
・急性期	0	・急性期	0
・回復期	0	・回復期	0
・慢性期	0	・慢性期	0
・休床	18	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	18 看護師数が足りれば解消する
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容			
診療科目(令和 6年 9月19日現在)		内科・小児科	
職員数(令和 6年 9月19日現在)		5名	
現在(令和 6年 9月19日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)		一般外来、発熱外来のみ	
現在(令和 6年 9月19日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		なし	
現在(令和 6年 9月19日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		発熱外来(医療措置協定済)	
現在(令和 6年 9月19日現在)の他機関との連携		公立小野地方総合病院	
現在(令和 6年 9月19日現在)の自施設の課題		看護師不足	
R7年(2025)において地域で担う役割		かかりつけ医として	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		なし	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		なし	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		発熱外来(医療措置協定済)	
R7年(2025)の他機関との連携		不明	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		なし	
建物の建替え、改修予定		なし	
高額医療機器の購入		なし	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		医師の高齢化	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目		
病院名		医療法人青鳩会 すずきレディースクリニック
R5.7.1現在の病床数(総数)	19	R7.7.1現在の予定病床数(総数) 19
・高度急性期		・高度急性期
・急性期	19	・急性期 19
・回復期		・回復期
・慢性期		・慢性期
・休床	なし	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	なし	
診療科目(令和 5年 10月 1日現在)	産科、婦人科	
職員数(令和 5年 10月 1日現在)	医師 常勤1名 非常勤7名 助産師11名 看護師5名 看護助手2名 医療事務5名	
現在(令和 5年 10月 1日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)	主に低リスク妊産婦の妊娠、分娩管理、一般婦人科診療 令和4年度 (4月～翌3月) 分娩件数 562件 うち帝王切開 69件 平均外来患者数 38.5人/日	
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応		
現在(令和 5年 10月 1日現在)の他機関との連携	太田西ノ内病院、寿泉堂綜合病院、星綜合病院、総合南東北病院、坪井病院、公立岩瀬病院、福島県立医科大学附属病院と連携して診療	
現在(令和 5年 10月 1日現在)の自施設の課題	現在常勤医師1名で診療を行っており、医師の負担が大きい。数か月以内に常勤医師の増員を予定している。 また、看護師、助産師も子育てをしながら働いている職員が多く、夜勤などの負担が大きい。人員を増員したいが、各施設ともに人員不足であり、採用が容易でない。	
R7年(2025)において地域で担う役割	低リスク妊婦の妊娠、分娩管理および一般婦人科診療	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	ハイリスク妊娠の妊娠、分娩管理、手術を要する患者の婦人科診療	
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応		
R7年(2025)の他機関との連携	現在と特に変更の予定はない	
R6(2024)からの働き方改革への対応について	既に宿日直許可を取っている。常勤医師の増員やIT化による診療の効率化。併せて医師以外の看護従事者、医療事務などの効率化、生産性の工場を図りたい。	
建物の建替え, 改修予定	スプリンクラーの導入を計画している	
高額医療機器の購入	令和5年度の補助金にて保育器、インファントウォーマーを購入予定。現在当院で保育器2台、インファントウォーマー2台稼働しているが、ともに開院時に他院から譲渡されたものであり、来年度以降も更新が必要である。	
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	短期的には医師、助産師、看護師の人員の確保が課題。また、開院時に他院から譲渡された医療機器はすでに耐用年数に近くなっており、更新が必要であり、更新に多額の費用がかかる。長期的には少子化、分娩数の減少による経営の不透明性が問題。令和7年度以降分娩の保険適応が予定されており、それらが経営に与える影響が不明。	

病院及び有床診療所の病床数等(令和6年10月31日現在)

資料3

番号	病院名	R6.10.31現在の病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
1	医療法人 創流会 朝日病院	30		30				30		30			
2	公益財団法人湯浅報恩会 寿泉堂香久山病院	199			51	148		199			51	148	
3	医療法人社団新生会 南東北第二病院	156		105	51			156		105	51		
4	医療法人明信会 今泉西病院	158		71	45	42		102			60	42	56 * 令和7年4月以降に返還予定
5	医療法人慈繁会付属土屋病院	80				80		80				80	
6	医療法人明信会 今泉眼科病院	60		38			22	60		38			22 統合計画延期(具体的日程は未定)
7	奥羽大学歯学部附属病院	22		22				22		22			
8	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	1,036	86	698			252	895	86	698	60		51 ※51床 内科系病床の拡充検討 (結核モデル病床を含む病棟の返還も検討)
9	総合南東北病院	461	22	439				461	22	439			
10	一般財団法人太田総合病院附属太田熱海病院	399		164	57	102	76	319		164	57	51	47 医師及び看護師等の労働力不足により、止むを得ず休床に至った。以後、関係各所に働きかけを行い要員確保に努めたが、引き続き人口減少、労働者不足を背景に要員を確保することが非常に困難である。また、熱海・湖南地区の人口減少からも休床病床の当該地区での必要性も低下しており、病床の見直しが必要である。療養病床については確保病床として運用してきたが3月末で終了となる。現時点では離職した要員の確保や確保病床に移行する前の状態に戻す病棟改修等は困難であり療養病床48床を返上したい。返上後、当該病床には今後の整形外科診療の再開に備え、一般病床の休床分57床を移行したい。現在休床中の回復期32床と療養病床48床の計80床を返上する見通しである。
11	一般財団法人慈山会医学研究所付属坪井病院	179		110		18	51	179		110		18	51(看護師不足のため、見通しは立っていない)
12	寿泉堂総合病院	305	6	299				305	14	291			
13	郡山市医療介護病院	40				40		40				40	
14	医療法人郡山病院	41				41		41				41	
15	公益財団法人星総合病院	一般病床415床(他に精神科15床)	14	341	60			一般病床415床(他に精神科15床)	20	335	60		
16	医療法人佐藤胃腸病院 佐藤胃腸科外科病院	120				120		98				98	
17	福島県総合療育センター	90		50		40		90		50		40	
18	医療法人社団ときわ会 日東病院	36		36				36		36			
19	郡山医療生活協同組合 桑野協立病院	104			60	40	4	104			60	40	4

番号	病院名	R6.10.31現在の病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
20	医療法人 平心会 須賀川病院	114		114				114		114			
21	公立岩瀬病院企業団 公立岩瀬病院	335 (感染症病床6床)		225	48		56	335 (感染症病床6床)	9	216	48		56
22	医療法人三愛会 池田記念病院	142		56	86			142		56	86		
23	南東北春日リハビリテーション病院	60			60			60			60		
24	独立行政法人国立病院機構福島病院	303			100	120	83	303			100	120	83 現在、医師数の不足により休床としているため、今後、医師の確保状況に応じて運用病床とする
25	たむら市民病院	32		20	12			32		20	12		
26	ひらた中央病院	142		36		106		142		36		106	
27	三春町立三春病院	86		31	15	40		86		31	15	40	
28	公立小野町地方総合病院	119		60		59		119		60		59	
29	医療法人 八木眼科医院	8		8				8		8			
30	郡山整形外科・リハビリテーション科	19				19		19				19	
31	医療法人 たなかレースクリニック	12		12				12		12			
32	南東北眼科クリニック	18		18				18		18			
33	医療法人慈繁会付属トータルヘルスクリニック	15		15				15		15			
34	ぐっすくリーぷクリニック	1		1				1		1			
35	医療法人 美術館通りクリニック	0						0					
36	医療法人宣誠会 古川産婦人科	19		19				19		19			
37	医療法人 仁正会 塚原産婦人科内科・外科医院	15		15				15		15			
38	一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 南東北がん陽子線治療センター	19		19				19		19			
39	医療法人エイレイテュイア 岡崎バースクリニック	19		19				19		19			
40	今泉須賀川医院(眼科)	13		13				13		13			
41	医療法人崇敬会 清水医院	15				15		15				15	
42	こじま眼科	5		5				5		5			
43	医療法人健山会 船引クリニック	14					14	14					14 コロナ感染増加傾向のため継続 コロナの状況により来年度再開の見通し
44	田村市立都路診療所	19					19	19					19床(数年以内に開設予定の市民病院へ移行する予定)
45	石塚医院	18					18	18					18 看護師数が足りれば解消する
46	医療法人青嶋会 すずきレディースクリニック	19		19				19		19			

番号	病院名	R6.10.31現在の病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
合計		5,506	128	3,108	645	1,030	595	5,207	151	3,014	720	957	421
R6. 10. 31現在との増減数								-299	23	-94	75	-73	-174
	令和7年必要病床数(県中医療圏)							4,643	469	1,640	1,404	1,130	
	基準病床数(県中医療圏・第8次福島県医療計画より)	5,244											

* 病床数(総数)は、休床を含み感染症病床及び精神病床を除いている。
令和5年7月1日以降の変更。